

## 第100回資金管理業務諮問委員会 議事録

1. 日時:2023年2月27日(月)14時00分～15時30分
2. 場所:公益財団法人自動車リサイクル促進センター 第1・第2会議室
3. 出席者:菅原委員長、井岡委員、佐々木委員、高岡委員、村上(千)委員、山田委員  
以上6名  
その他 経済産業省・環境省担当官、公益財団法人自動車リサイクル促進センター役職員が出席
4. 議題:(1)2022年度第3四半期の概況(報告事項)  
(2)2022年度第3四半期の決算(報告事項)  
(3)2022年度第3四半期の運用実績(報告事項)  
(4)2023年度事業計画(諮問事項)  
(5)2023年度特預金の出えん等計画(諮問事項)  
(6)2023年度運用計画(諮問事項)  
(7)2023年度収支予算(諮問事項)  
(8)ユーザー理解活動の取組状況(報告事項)

### 5. 議事録

#### (1)2022年度第3四半期の概況(報告事項)

事務局から資料「第100回 資金管理業務諮問委員会」の3～6ページにて報告した。

#### <主な意見>

##### 【委員A】

今後の金利動向については、日銀の総裁交代後も、当面、金融緩和策の修正はないとの見方が多い。ただし、YCC(イールドカーブコントロール)については修正される可能性があるとも言われている。YCCが修正された場合、直後は金利が変動することが考えられるが、その後は現在と同水準あるいはそれ以下に落ち着くのではないかと考える。

一方で、米国の金利施策については、インフレが抑制されていないという観点から、利上げサイクルが長期化する可能性がある。その場合、円安に向かうことも想定される。米国の金融施策の動向が日本の金利の動向に影響を与える可能性も考えられるが、現在のJARCの運用方針については現状通りで問題ないとする。

#### (2)2022年度第3四半期の決算(報告事項)

事務局から同資料の7～18ページにて報告した。

<主な意見>

なし

(3)2022 年度第 3 四半期の運用実績(報告事項)

事務局から同資料の 19～26 ページにて報告した。

<主な意見>

なし

(4)2023 年度事業計画(諮問事項)

事務局から同資料の 27～34 ページにて報告した。

<主な意見>

【委員B】

輸出返還の減少要因であるモンゴルの右ハンドル規制には、どのような背景があるか。

【資金管理センター】

モンゴルでは国内産業の保護や交通事情などを背景として、右ハンドル車の輸入規制を行っている。輸入規制については緩和期間を設けていたとも聞いているが、その緩和期間が現状どのようになっているかまでは調査していない。

【環境省】

自動車リサイクルシステムの大規模改造に向けた取り組みや、インボイス制度への対応などについては、委員の方々に資金管理の観点での議論・検討を継続していただきたい。

(5)2023 年度特預金の出えん等計画(諮問事項)

事務局、広報・理解活動推進部及びシステム部から同資料の 35～41 ページ、並びに事務局及びシステム部から議場限り資料「システム大改造の進捗報告」にて報告した。

※議場限り資料の質疑応答は非公開資料に基づくため非公開

<主な意見>

【経済産業省】

自動車リサイクルシステムの大改造は、大きな金額が動くプロジェクトであるため、外部から説明を求められた際には、きちんと対応していただきたい。

(6)2023 年度運用計画(諮問事項)

事務局から同資料の 42～46 ページにて報告した。

<主な意見>

なし

(7)2023 年度収支予算(諮問事項)

事務局から同資料の 47～58 ページにて報告した。

<主な意見>

なし

(8)ユーザー理解活動の取組状況(報告事項)

広報・理解活動推進部から別冊「(報告)ユーザー理解活動の取組状況」にて報告した。

<主な意見>

【委員B】

現場見学会などの取り組みは、子供たちが自動車リサイクルの現場を実際に見て学ぶことができるため、貴重な体験になっていると思う。今後も継続していただきたい。

【委員C】

現場見学会の開催地は地方圏が多いようだが、首都圏や近畿圏などの人口が多いエリアでの開催は検討されていないのか。

【広報・理解活動推進部】

現場見学会の開催地については、本財団が特に指定しているものではないものの、人々が車社会の中で自動車を身近な存在として認知している地域であることを重視している。その観点で自動車リサイクルの関係者に紹介していただいた事業者の拠点を開催地としている。引き続き幅広い地域で現場見学会が行えるよう関係者と調整する。

以上